

2023 年度 秋学期

立教セカンドステージ大学
科目聴講生用

講義内容(シラバス)

- (1) 開講科目一覧表
- (2) 講義内容(シラバス)

2023年度 秋学期 開講科目一覧（科目聴講生用）

2023年7月現在

	科目コード	科目名	担当者	開講日程		対面/オンライン	シラバス
第1群 エイジング社会の教養科目群	OG125	聖書と私	新井 美穂	秋学期	火5	オンライン	P1
	OG149	自由な市民のための映画学入門	中村 秀之	秋学期	木4	対面	P2
	OG160	現代美術に親しむ	菊池 敏直	秋学期	火2	オンライン	P3
	OG128	グローバル社会とメディアの使命	三浦 元	秋学期	月4	対面	P4
	OG118	ジャーナリズムと法A	服部 孝章	秋学期	木4	対面	P5
	OG254	現代化学の成果と社会生活	宮部 寛志	秋学期	月5	対面	P6
第2群 コミュニティデザインとビジネス科目群	OG239	ブラチナ社会におけるアクティブシニア論	松田 智生	秋学期	水5	対面	P7
	OG226	修了生が語るアクティブシニアの生き方	栗田 和明	秋学期	金4	対面	P8
	OG100	セカンドステージの市民生活とNPO活動	渡辺 豊博	秋学期	火4	オンライン	P9
	OG242	国際政治とグローバル市民社会の構想	竹中 千春	秋学期	火5	オンライン	P10
	OG248	SDGsとビジネスロー	河村 賢治	秋学期	火1	オンライン	P11
	OG243	金融論	鉢村 健	秋学期	水4	対面	P12
	OG247	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	堂園 昇平	秋学期	月4	対面	P13
	OG252	日本と世界の経済政策	山縣 宏之	秋学期	火3	オンライン	P14
	OG251	21世紀の中国経済 	巖 成男	秋学期	金5	対面	P15
第3群 デザイン設計科目群	OG307	セカンドステージの哲学	佐々木一也	秋学期	火4	オンライン	P16
	OG350	現在（いま）を生きるための健生学	堀 エリカ	秋学期	水4	対面	P17
	OG312	セカンドステージとテクノロジー	村上 祐子	秋学期	火3	オンライン	P18

科目コード	OG125	科目名	聖書と私	科目群	第1群
担当者	新井 美穂 (アライ ミホ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考	履修人数制限なし				
授業の目標	聖書を学ぶ事を中心にキリスト教に親しむ事を目標にします。聖書は私たちの姿や社会を炙り出します。この時代を生きる者として、自分を見つめ、互いを生かし合い(愛)、生かされ合う生き方の源泉を聖書から考えたいと思います。				
授業の内容	本講義は講義中心の「聖書」を通しての入門講座です。少し知的に、少し心に潤いの時間です。前半は旧約聖書の中のいくつかの箇所からイスラエルの神とメシアを待望する民の関係を見つめ、イスラエル史を概観し、神と人間について考えます。後半は福音書を中心に、イエス・キリストの教えと生涯が投げかけてくる問いを探り、自分や社会を見つめ、聖書のメッセージに耳を傾けたいと思います。教会暦についても学びます。(内容や形式は必要に応じて微修正を行います)				
授業計画	<p>第1回 9/26 キリスト教に親しむ～ユダヤ教とキリスト教の関係</p> <p>第2回 10/3 聖書に親しむ～開き方から学び、創世記1章2章に学ぶ</p> <p>第3回 10/10 エジプト脱出～旧約聖書の「神の選び」について考える</p> <p>第4回 10/17 十戒について</p> <p>第5回 10/24 イエス及び福音書記者の考える十戒の理解について</p> <p>第6回 11/7 イスラエルの歴史～エジプト脱出後から王国成立まで</p> <p>第7回 11/14 イスラエルの歴史～王国分裂と預言者の働き</p> <p>第8回 11/21 イスラエルの歴史～バビロン捕囚と帰還</p> <p>第9回 11/28 イスラエルの歴史～ヘレニズム世界の支配の下で</p> <p>第10回 12/5 イエス・キリストについて～誕生物語その1</p> <p>第11回 12/12 イエス・キリストについて～誕生物語その2</p> <p>第12回 12/19 イエス・キリストについて～たとえ話・奇跡物語</p> <p>第13回 1/9 イエス・キリストについて～受難物語</p> <p>第14回 1/16 イエス・キリストについて～復活物語</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	お持ちの聖書があればそれで構いません。(必要なものはプリントします) 木田献一、2016、『古代イスラエルの預言者たち』、清水書院。(1999年版は同じ物) 池澤夏樹、2012、『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』、小学館。				
その他(HP等)					

科目コード	OG149	科目名	自由な市民のための映画学入門	科目群	第1群
担当者	中村 秀之 (ナカムラ ヒデユキ)				
開講日程・時限	秋学期・木曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限あり				
授業の目標	映画を「作品」として深く味わうための基本的な知識と方法を習得する。 映画を娯楽として消費するだけの受け身の姿勢から脱却することをめざす。				
授業の内容	この授業では、映画をディスクの再生やネット配信で楽しむことができるようになった現状を踏まえて、映画の「作品」としての特性と、表現の基本的な規則や技法を解説します。相互に関連がありタイプが異なる3本の作品を順に観覧し、それぞれ、物語（構成、内容、語り口など）とスタイル（映像と音響の技法）の両面から検討を加えます。さらに、作品中の特に重要な場면을集中的に研究し、作品の理解を深めます。				
授業計画	第1回 9/21 ガイダンスとイントロダクション。作品の観覧① 第2回 9/28 作品の観覧①のつづき 第3回 10/5 物語の検討① 第4回 10/19 スタイルの検討① 第5回 10/26 主要場面の研究① 第6回 11/9 作品の観覧② 第7回 11/16 物語の検討② 第8回 11/30 スタイルの検討② 第9回 12/7 主要場面の研究② 第10回 12/14 作品の観覧③ 第11回 12/21 物語の検討③ 第12回 1/11 スタイルの検討③ 第13回 1/18 主要場面の研究③ まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	プリントを配布します。				
上記教科書以外の参考図書	D. ボードウエル、K. トンプソン、2007、『フィルム・アート——映画芸術入門』、（藤木秀朗監訳）、名古屋大学出版会。 その他、授業の中で紹介し、適宜、コピーを配布します。				
その他（HP等）	教材の配布やリアクションペーパーの提出など、Blackboard を活用します。				

科目コード	OG160	科目名	現代美術に親しむ	科目群	第1群
担当者	菊池 敏直 (キクチ トシナオ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・2時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考	履修人数制限なし				
授業の目標	① 「見えたもの」をもっとよく見ようと思う ② 「見えないもの」も見ようと思う ③ 私にとって「美術は特別なものではない」と思えるようになる				
授業の内容	『現代美術』と呼ばれる造形表現があることとその“イメージ”を話します。自分史の中にある美術観と比較、考察し、疑問＝問いを見つけることを目指しましょう。現代の美術が成立するに至った20世紀美術の概略を解説します。美術とワタシと社会の関係性を俯瞰し、私達が、見て、接して、感じ、考える美術作品が、見つかった問いへの造形表現という回答であり、問いそのもの、ということに辿り着くように、自ら問うことを反復しましょう。				
授業計画	第1回 9/26 自分史と美術 第2回 10/3 鳥の声 第3回 10/10 20世紀美術略説① 第4回 10/17 鳥の声をみる 第5回 10/24 ○△□ 第6回 11/7 20世紀美術略説② 第7回 11/14 考えてカンガエナイ 第8回 11/21 水のカタチ 第9回 11/28 20世紀美術略説③ 第10回 12/5 嗜好と思考と志向① 第11回 12/12 嗜好と思考と志向② 第12回 12/19 開放と閉鎖 第13回 1/9 作品とモノと表現とワタシ 第14回 1/16 鏡を見ながら「見る」を考える * テーマが前後することあり				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	暮沢剛己、2009、『現代美術のキーワード100』、ちくま新書。 E・H・ゴンブリッチ、2011、『美術の物語』(ポケット版)、PHAIDON。				
その他 (HP 等)					

科目コード	OG128	科目名	グローバル社会とメディアの使命	科目群	第1群
担当者	三浦 元 (ミウラ ハジメ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限あり				
授業の目標	メディアの歴史や人権に係わる報道の役割・使命等の基本を学ぶ。同時に、技術革新による番組制作の現状を把握する。受講生が「自ら考え・判断し・意見を述べる」能力や「感想や見識を表明する」能力をより一層高める。				
授業の内容	メディアを学ぶ「メディアリテラシー」社会と深く係わる総ての現代人にとってのリベラル・アーツ。ロシアによるウクライナ侵攻・終息の見えない新型コロナウイルス感染等で流動的で不透明な世界の政治・経済・軍事情勢。より深化する米中覇権争い。スーパーハイビジョン、コンピュータ技術、スマホ展開活用の「新映像時代」の解析。放送と通信の融合が一段と進展する中で、地球的規模の課題から身近な問題をめぐるメディア報道・番組制作の舞台裏を説く。				
授業計画	第1回 9/25 ガイダンス～なぜ晴れた空は青く夕焼けは紅い？Why 重要～ 第2回 10/2 ウクライナ侵攻・新型コロナ 生命を守る矜持～報道の使命～ 第3回 10/16 気候クライシス～地球温暖化の警告～ 第4回 10/23 エドワード・マロー～テレビジャーナリズムの心柱～ 第5回 10/30 ハゲワシと少女～報道か生命か～ 第6回 11/13 ハンセン病～差別とどう向き合うか～ 第7回 11/20 ドキュメンタリー番組とは～現代のベートーベンの罪～ 第8回 11/27 映画監督大林宣彦～最後の講義と遺言～ 第9回 12/4 五輪とテレビ～2人3脚の発展と課題～ 第10回 12/11 障害者スポーツの神髄 第11回 12/18 コンピュータ 創造の世界～名画修復・ディズニーアニメ～ 第12回 1/15 ハリウッド 映像王国の挑戦 第13回 1/22 プレゼンテーションの極意				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	NHK 放送文化研究所、2002、『放送の20世紀』、NHK 出版、2000円。 吉岡友治、2013、『いい文章には型がある』、PHP 新書、760円。 望月和彦、2003、『ディベートのすすめ』、有斐閣選書、2100円。				
その他 (HP 等)	一連の講義終了後 2022 年度も NHK 放送技術研究所等の見学も検討していたが、新型コロナ感染の状況が見通せない中で、実施は見送っている。				

科目コード	OG118	科目名	ジャーナリズムと法 A	科目群	第 1 群
担当者	服部 孝章 (ハットリ タカアキ)				
開講日程・時限	秋学期・木曜日・4 時限	授業方式	対面	単位数	2 単位
備考	履修人数制限あり				
授業の目標	近年展開する表現活動への制約拡大、メディア規制は深化している。一方、社会における情報民主主義は崩壊しつつある。情報主権者としてこの状況を考察する。				
授業の内容	デジタル化の全面展開のなかで、旧来のメディアである新聞・雑誌・書籍・ラジオ・テレビ・映画は産業として厳しい状況におかれている。街中から書店、映画館が消え、さらに公共図書館の貧弱化がおきている。報道機関の政治権力監視機能の弱体化と並行して市民による報道機関の生産物への接触は急激に減ってきた。こうした状況において、情報民主主義社会の理想を模索しつつ、可能な限り文書資料、映像資料を配布提示して講義を進める。				
授業計画	第 1 回 9/21 メディア接触の激変 第 2 回 9/28 情報技術の進捗 第 3 回 10/5 情報民主主義の崩壊 第 4 回 10/19 FIFA ワールドカップ報道への爆走 第 5 回 10/26 報道機関のスポーツイベント協賛 第 6 回 11/9 ジャーナリズムと憲法 第 7 回 11/16 ジャーナリズムの衰退：日本、韓国、欧米 第 8 回 11/30 メディアの産業化と吸収合併 第 9 回 12/7 放送とネットメディア 第 10 回 12/14 放送制度の変遷 第 11 回 12/21 欧米の報道メディア環境 第 12 回 1/11 NHK と朝日新聞：陥落する主役の座 第 13 回 1/18 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	テーマに関連した新聞記事、参考文献等を配布する。				
上記教科書以外の参考図書	随時、紹介する。				
その他 (HP 等)					

科目コード	OG254	科目名	現代化学の成果と社会生活	科目群	第1群
担当者	宮部 寛志 (ミヤベ カンジ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限あり				
授業の目標	化学の歴史を辿ってその基礎に触れ、応用技術が社会に与えた恩恵と影響を知って現代にもつながる課題を考察する。化学の進展に携わった人々の人物像や人生という視点からも化学の歩みを捉え、身近な教養としての化学の理解を深める。				
授業の内容	人類は如何に現代化学の理解に到達したのか。どのような人物が化学を進展させ、彼らはどのような人生を送ったのか。主に化学の領域に焦点を絞って人類の自然観・物質観の変遷を俯瞰し、現在に至る化学の歴史を振り返る。また、応用技術の開発や利用の過程で顕在化した様々な問題を考察し、化学の展開に我々は如何に向き合うのかを考える契機とする。化学の基礎知識だけではなく、化学の進展に関わった人々の姿や社会的背景等をも踏まえ、化学の多角的な理解を志向する。				
授業計画	<p>第1回 9/25 ガイダンス、現代化学の基礎的知見</p> <p>第2回 10/2 古代～中世の物質観の変遷、錬金術の特徴と位置付け</p> <p>第3回 10/16 化学革命（現代化学の黎明期）、燃烧理論、原子論の復活</p> <p>第4回 10/23 元素の発見（金属・気体・希ガス）から周期律へ</p> <p>第5回 10/30 原子の探求（電子・陽子の発見）、X線の発見と原子番号</p> <p>第6回 11/13 原子構造の解明、化学結合・分子構造、有機化学</p> <p>第7回 11/20 工業化学の発展（人工染料の合成・ナイロンの発明）</p> <p>第8回 11/27 大気を変える錬金術（ハーバー・ボッシュ法、第1回）</p> <p>第9回 12/4 大気を変える錬金術（ハーバー・ボッシュ法、第2回）</p> <p>第10回 12/11 高性能精密分離（クロマトグラフィー）、アミノ酸分析</p> <p>第11回 12/18 代表的医薬品の概観、抗生物質（サルバルサン）の開発</p> <p>第12回 1/15 抗生物質（サルファ剤・ペニシリン）の開発</p> <p>第13回 1/22 DDT（有機塩素系殺虫剤）、フロン（冷媒）、まとめ</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	教科書はありません。パワーポイント画面を使用して講義を行います。				
上記教科書以外の参考図書	話題が多岐に亘りますので、特定の参考書はありません。				
その他（HP等）					

科目コード	OG239	科目名	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	科目群	第2群
担当者	松田 智生 (マツダ トモオ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限あり				
授業の目標	活力ある高齢社会を示す「プラチナ社会」において、RSSCの修了後にどのようなセカンドステージを歩いていくか、国内と海外の好事例をもとに、学び×生活×多世代×ビジネスの視点を交えながらアクティブシニア論を展開する。				
授業の内容	次の授業計画に基づきアクティブシニアの基本要素と国内と海外の好事例を紹介する。一方通行の座学でなく、受講生同士のディスカッションを重視し、講義→討議→共有→演習の実践的且つ双方向な授業を展開する。 毎回、前回の講義のフィードバックを行い、授業の理解度や進捗状況を把握しながら有効に進める。				
授業計画	<p>第1回 9/20 プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む）</p> <p>第2回 9/27 アクティブシニアと新たな市場</p> <p>第3回 10/4 アクティブシニアと新たな大学</p> <p>第4回 10/18 アクティブシニアとまちづくり</p> <p>第5回 10/25 アクティブシニアの挑戦に学ぶ</p> <p>第6回 11/8 アクティブシニアのコミュニティデビュープラン作成</p> <p>第7回 11/15 アクティブシニアのコミュニティデビュープラン発表</p> <p>第8回 11/22 アクティブシニアのフィールドワーク（視察）</p> <p>第9回 11/29 海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル</p> <p>第10回 12/6 アクティブシニアと地方創生</p> <p>第11回 12/13 アクティブシニアと多世代交流</p> <p>第12回 12/20 アクティブシニアの大学連携型コミュニティ①</p> <p>第13回 1/10 アクティブシニアの大学連携型コミュニティ②</p> <p>第14回 1/17 研究のまとめと発表・講評</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	松田智生 2017、『日本版 CCRC がわかる本』、法研、2,500円（税別）。 松田智生 2020、『明るい逆参勤交代が日本を変える』事業構想大学院大学、1,500円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）	松田智生 インタビュー 多世代が輝く「プラチナ社会」が日本の未来を創る。 https://kaishi-pu.ac.jp/matsuda-tomoo （開志専門職大学）				

科目コード	OG226	科目名	修了生が語るアクティブシニアの生き方	科目群	第2群																																										
担当者	栗田 和明 (クリタ カズアキ)																																														
開講日程・時限	秋学期・金曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位																																										
備考	履修人数制限あり																																														
授業の目標	RSSC は2023年度を迎え、創立以来の修了生は約 1,300 名を超えるが、修了後の RSSC 社会貢献活動サポートセンター登録研究会での活動、個人やグループでのアクティブな活動や社会とのかかわりをトレースし、これから私達の生き方や社会との交流のあり方に貴重な指針とヒントを得る機会にする。																																														
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> サポートセンター登録研究会（以下、SC 研究会）からの発表、修了生からの個人的なキャリア・特技・趣味、RSSC での学びと人的ネットワークを活かした、コミュニティでの交流や社会貢献活動等の多様な事例を発表願う。 発表・質疑応答やグループディスカッションを通じ、活動の立上げや運営の難しさ、今後の課題等を理解する。毎回タイムリーなフィードバックも行う。 これからの自分の生き方や人生設計を考察する。 																																														
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>9/22</td><td>「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>9/29</td><td>SC 研究会の事例発表 (3件)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>10/6</td><td>SC 研究会の事例発表 (3件)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>10/13</td><td>SC 研究会の事例発表 (3件)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>10/20</td><td>SC 研究会の事例発表 (3件)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>10/27</td><td>グループディスカッションとまとめ・発表会①</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>11/10</td><td>個人・グループの社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>11/24</td><td>個人・グループの社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>12/1</td><td>NPO 法人の社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>12/8</td><td>RSSC 同窓会及び同窓会事業の事例紹介 (3件)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>12/15</td><td>グループディスカッションとまとめ・発表会②</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>12/22</td><td>受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表①</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>1/5</td><td>受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表②</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>1/19</td><td>授業の総括と感想文の作成</td></tr> </table> <p>* 具体的登壇研究会名、修了者名などは授業開始時に発表する。</p>					第1回	9/22	「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)	第2回	9/29	SC 研究会の事例発表 (3件)	第3回	10/6	SC 研究会の事例発表 (3件)	第4回	10/13	SC 研究会の事例発表 (3件)	第5回	10/20	SC 研究会の事例発表 (3件)	第6回	10/27	グループディスカッションとまとめ・発表会①	第7回	11/10	個人・グループの社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)	第8回	11/24	個人・グループの社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)	第9回	12/1	NPO 法人の社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)	第10回	12/8	RSSC 同窓会及び同窓会事業の事例紹介 (3件)	第11回	12/15	グループディスカッションとまとめ・発表会②	第12回	12/22	受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表①	第13回	1/5	受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表②	第14回	1/19	授業の総括と感想文の作成
第1回	9/22	「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)																																													
第2回	9/29	SC 研究会の事例発表 (3件)																																													
第3回	10/6	SC 研究会の事例発表 (3件)																																													
第4回	10/13	SC 研究会の事例発表 (3件)																																													
第5回	10/20	SC 研究会の事例発表 (3件)																																													
第6回	10/27	グループディスカッションとまとめ・発表会①																																													
第7回	11/10	個人・グループの社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)																																													
第8回	11/24	個人・グループの社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)																																													
第9回	12/1	NPO 法人の社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)																																													
第10回	12/8	RSSC 同窓会及び同窓会事業の事例紹介 (3件)																																													
第11回	12/15	グループディスカッションとまとめ・発表会②																																													
第12回	12/22	受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表①																																													
第13回	1/5	受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表②																																													
第14回	1/19	授業の総括と感想文の作成																																													
成績評価方法	平常点による評価																																														
講義中に直接使用する教科書																																															
上記教科書以外の参考図書																																															
その他 (HP 等)	登壇する SC 研究会、同好会の一部は RSSC 同窓会ホームページで紹介しているので参照されたい。																																														

科目コード	OG100	科目名	セカンドステージの市民生活とNPO活動	科目群	第2群
担当者	渡辺 豊博 (ワタナベ トヨヒロ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・4時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考	履修人数制限なし				
授業の目標	「今までの人生経験で蓄積してきた専門的な知識や経験を地域社会で活かしたい、新たな人的交流の場に参加したい」などさらなる発展的な市民生活を過ごすためのヒントや仲間づくり、社会貢献の場づくりを再発見することを目標とする。				
授業の内容	本講座では、セカンドステージにおける社会的な役割や新たな市民生活のあり方、生きがい、やりがいのある場づくりなどを再発見するための多様なヒントや多種多様な社会参加のケーススタディに関わる情報提供を行うとともに、日常的な市民生活の中で役立つ市民活動のあり方、心構え、NPOの基礎知識、具体的な活動を現場で実現するための実践的なノウハウ、英国や米国での先進的なNPOの手法、グラウンドワーク三島の現場学、地域ビジネス創業の方法などについて学ぶ。				
授業計画	<p>第1回 9/26 講義のガイダンス、自己紹介、学びたいポイントの確認</p> <p>第2回 10/3 行政の限界・破綻を考える</p> <p>第3回 10/10 市民活動の現状と課題、可能性を考える</p> <p>第4回 10/17 国策に挑んだ南方熊楠の挑戦と戦略とは</p> <p>第5回 10/24 富士山を救え・NPOパワーの実力と可能性を考える</p> <p>第6回 11/7 NPOって何を学ぶ</p> <p>第7回 11/14 多様なNPOの実践事例を学ぶ(環境・地域づくり・交流)</p> <p>第8回 11/21 東日本大震災でのNPOの役割と課題を学ぶ</p> <p>第9回 11/28 グラウンドワーク三島の実践的なノウハウと極意を学ぶ</p> <p>第10回 12/5 グラウンドワーク三島の活動事例を学ぶ(水辺再生)①</p> <p>第11回 12/12 グラウンドワーク三島の活動事例を学ぶ(森づくり)②</p> <p>第12回 12/19 英国グラウンドワークのパートナーシップの手法を学ぶ</p> <p>第13回 1/9 中高年が中心となった市民活動やビジネスなどの事例紹介</p> <p>第14回 1/16 全体的な質疑応答と振り返り、講義のまとめ</p> <p>* 希望者を対象にグラウンドワーク三島での体験学習有り</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	渡辺豊博、2016、『先生、NPOって儲かりますか?』、春風社、1,389円(税別)。				
上記教科書以外の参考図書	渡辺豊博、2005、『清流の街がよみがえった』、中央法規出版株式会社、2,000円(税別)。渡辺豊博、2012、『共助社会の戦士たち』、静岡新聞社、952円(税別)。渡辺豊博、2013、『失敗しないNPO』、春風社、1,500円(税別)。				
その他(HP等)	NPO法人 グラウンドワーク三島・ホームページ http://www.gwmishima.jp				

科目コード	OG242	科目名	国際政治とグローバル市民社会の構想	科目群	第2群
担当者	竹中 千春 (タケナカ チハル)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考	履修人数制限なし				
授業の目標	グローバル化時代の世界は厳しい動揺に見舞われています。持続可能な発展や平和をめざして市民に何ができるのか。一緒に考えていきましょう。				
授業の内容	2020-22年の世界では、パンデミック、経済危機とエネルギー危機、ウクライナ戦争、核戦争の恐れなど驚異的な事件が続々と起こっています。国際政治の原点は、ヨーロッパのすべての国々が30年も続いた宗教戦争を終結し、国際平和を取り戻すために締結したウェストファリア条約だと言われます。同じ頃、日本でも長い戦国時代の後、江戸幕府の統治が始まっていました。その後4世紀近く、民主主義、国民国家、工業化、核兵器などの新しい現象が登場するたびに、近代ヨーロッパ起源の国家や国際政治のしくみは変容させられ、世界大に影響を及ぼしてきました。この政治のしくみは、今日の人類的危機を克服するために有効性を発揮できるのか。市民の視点から一緒に考えていきましょう。				
授業計画	第1回 9/26 グローバリゼーション時代の国際政治とその課題 第2回 10/3 感染症のパンデミックと国際社会 第3回 10/10 気候変動・温暖化・水資源の問題と国際社会 第4回 10/17 国家は豊かさを守るか① 第5回 10/24 国家は豊かさを守るか② 第6回 11/7 国家は平和を守るか① 第7回 11/14 国家は平和を守るか② 第8回 11/21 移民・難民・移動する人々の時代 第9回 11/28 人権侵害・マイノリティ・女性 第10回 12/5 盗賊のインド史：女盗賊プーラン・デーヴィー 第11回 12/12 暴力の連鎖をもたらすのは誰か 第12回 12/19 暴力の連鎖を解くのは誰か 第13回 1/9 ガンディー 平和を紡ぐ人 第14回 1/16 総合討論：グローバル市民社会の時代を生きる				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	藤原帰一、2020、『不安定化する世界』、朝日新聞出版、979円(税込)。 竹中千春、2004、『世界はなぜ仲良くできないの?』、CCCメディアハウス、電子書籍、861円(税別)。 竹中千春、2018、『ガンディー 平和を紡ぐ人』、岩波新書、820円(税別)。				
上記教科書以外の参考図書	竹中千春、2010、『盗賊のインド史 帝国・国家・無法者』、有志舎、2,808円(税込)。 藤原帰一、2020、『戦争の条件』、集英社新書、880円(税込)。藤原帰一他編、2022、『気候変動は社会を不安定化させるか』、日本評論社、2,970円(税込)。				
その他(HP等)	他の参考文献や資料などについては各回の授業でご紹介します。				

科目コード	OG248	科目名	SDGs とビジネスロー		科目群	第 2 群
担当者	河村 賢治 (カワムラ ケンジ)					
開講日程・時限	秋学期・火曜日・1 時限	授業方式	オンライン	単位数	2 単位	
備 考	履修人数制限なし					
授業の目標	国連が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するために、ビジネスローがどのような役割を果たしているのか知ると同時に、自分自身が一市民として何ができるのか考える。					
授業の内容	SDGs を達成するためには、政府や非営利団体などだけでなく、民間企業の力を活用することが大切になります。実際に、多くの企業が事業活動と社会課題解決の両立に向けた取り組みを進めています。また、投資家も環境・社会・ガバナンス (ESG) を考慮した投資を拡大しています。この授業では、こうした企業や投資家の活動を後押しするビジネスローについて学びます (これらの動きに対して懐疑的な見解も取り上げます)。それと同時に、私たち自身が、例えば消費者・投資者・労働者/経営者などとして、何ができるのか考えたいと思います。					
授業計画	第 1 回 9/26 SDGs と ESG の基本 第 2 回 10/3 株式会社・資本市場の歴史 (東インド会社から現代そして未来) 第 3 回 10/10 企業統治に関するルール・動向等 (株主利益最大化の可否等) 第 4 回 10/17 企業統治に関するルール・動向等 第 5 回 10/24 受講生の皆さんからの話題提供 (企業の実践例の紹介等) 第 6 回 11/7 環境に関するルール・動向 (気候変動問題への対応等) 第 7 回 11/14 環境に関するルール・動向 第 8 回 11/21 受講生の皆さんからの話題提供 第 9 回 11/28 働き方に関するルール・動向 (過労死問題への対応等) 第 10 回 12/5 働き方に関するルール・動向 第 11 回 12/12 受講生の皆さんからの話題提供 第 12 回 12/19 投資に関するルール・動向 (SDGs・ESG と業績の関係等) 第 13 回 1/9 受講生の皆さんからの話題提供 第 14 回 1/16 まとめ * 受講生から各自 1 回の話題提供をしてもらいます。					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	特に指定しません。					
上記教科書以外の参考図書	授業で紹介します。					
その他 (HP 等)	「受講生の皆さんからの話題提供」は、多様な関心・視点などを授業に取り入れると同時に、受け身ではない双方向の学びを実践するためのものです。					

科目コード	OG243	科目名	金融論	科目群	第2群
担当者	鉢村 健 (ハチムラ タケシ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限あり				
授業の目標	「金融緩和＝負債膨張」は資本主義の根幹であり人類社会に多大な影響を与えています。授業では金融経済の基礎を振り返りながら、現代社会が抱える構造問題の真因を探り将来の課題を「自らの視点で捉え直す力の涵養」を目標とします。				
授業の内容	講義中心ですが理論や知識の暗記でなく、論理的な思考訓練に重きを置きます。現代社会は「グローバル化と技術革新」が進む一方、「格差拡大と民主主義の後退」に直面しています。またコロナと地域紛争を背景に「世界の富」は少数の勢力へと集中しています。この社会現象は「負債の膨張」と「巨額な資金決済」なしに実現できません。授業では多様な経験を持つ学生の皆さんに金融面から新たな視点を提供して、「現代社会が抱える課題の本質と将来像」をご一緒に考えます。				
授業計画	<p>第1回 9/20 オリエンテーション講義「現代社会と負債膨張」</p> <p>第2回 9/27 貨幣論(1)「銀行券と貨幣」—通貨の製造企画と発行管理</p> <p>第3回 10/4 貨幣論(2)「現金の流通構造」—還流システムと裾野産業</p> <p>第4回 10/18 貨幣論(3)「キャッシュレス」—仮想通貨と決済システム</p> <p>第5回 10/25 金融論(1)「民間金融」—銀行発達史と銀行経営の課題</p> <p>第6回 11/8 金融論(2)「中央銀行」—機能と業務内容、国際比較</p> <p>第7回 11/15 金融論(3)「金融市場」—金融政策と財政政策</p> <p>第8回 11/22 金融構造論(1)「日本経済」—少子高齢化と所得格差</p> <p>第9回 11/29 金融構造論(2)「地方経済」—中央依存と地域間格差</p> <p>第10回 12/6 金融構造論(3)「世界経済」—景気循環と保護主義</p> <p>第11回 12/13 国際金融論(1)「国際協調」—国際機関とサミット協議</p> <p>第12回 12/20 国際金融論(2)「開発援助」—途上国支援と植民地主義</p> <p>第13回 1/10 国際金融論(3)「マネーロンダリング」—地下経済と地政学</p> <p>第14回 1/17 総括講義</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	講義用のパワーポイントを毎回提供します(教科書の指定も利用もありません)				
上記教科書以外の参考図書	理解を深めたい学生用に、専門書を必要に応じて紹介します(購入不要です)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG247	科目名	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	科目群	第2群
担当者	堂園 昇平 (ドウゾノ ショウヘイ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限あり				
授業の目標	人生100年時代シニアが豊かなセカンドステージを送るうえでは、賢明な財産管理と適切な資産運用が重要であることから、現代的機能が注目されている信託について理論と実務・社会貢献への活用を学び、賢い人生設計に資する。				
授業の内容	中世英国において発生し時代と共に発展してきた信託の歴史・制度と公共性・社会貢献・多様な機能を理解し、公益信託や家族の財産管理に役立つ遺言代用信託・民事信託等を考察する。投資信託における信託機能と資産運用にも言及する。相続対策と信託の活用にも実務的に取り組む。受講生の目線で期待される新しい信託を考える。外部講師の高度な専門性に基づく理論と実務、平易かつ興味深い講義を展開し、グループ討議を取り入れる等、双方向コミュニケーションを図る。				
授業計画	<p>第1回 9/25 講座の目的、信託機能と信託商品</p> <p>第2回 10/2 シニアに役立つ信託商品の理解</p> <p>第3回 10/16 信託の過去・現在・未来～ジャーナリストが見た信託の変化</p> <p>第4回 10/23 ワークショップ：信託を作ってみよう！</p> <p>第5回 10/30 信託業務機能と投資信託における役割～シニアの賢い資産運用</p> <p>第6回 11/13 SDGs・ESG・CSR～サステナブル金融について</p> <p>第7回 11/20 資産運用と企業のESGへの取り組み</p> <p>第8回 11/27 ①公益信託について ②金融老年学について</p> <p>第9回 12/4 注目を浴びる成年後見制度と民事信託の理解と留意点</p> <p>第10回 12/11 相続対策と信託の活用～信託の利用で何が出来るか？</p> <p>第11回 12/18 不動産から考える相続、生前贈与・教育資金贈与と信託</p> <p>第12回 1/15 効果的な遺言の残し方、遺言書を作ってみよう！</p> <p>第13回 1/22 総括と感想文作成</p> <p>*コーディネーターや外部講師がそれぞれの専門分野を分担して講義を進めます。講師の都合による変更もあり得ます。</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)					

科目コード	OG252	科目名	日本と世界の経済政策	科目群	第2群
担当者	山縣 宏之 (ヤマガタ ヒロユキ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・3時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考	履修人数制限なし				
授業の目標	国際経済とアメリカの影響を強く受けて発展してきた現代日本の経済政策の展開を学んだうえで、世界各国・地域の経済政策、経済政策の最新の展開を踏まえ、日本におけるよりよい経済政策のあり方を考える素材と議論の場を提供する。				
授業の内容	国際経済のなかでの生き残りとしてアメリカの強い影響のもと、発展してきた現代日本の経済政策の展開とあり方を学ぶ。世界各国・地域の経済政策、経済政策が直面する最新の課題を踏まえた上で、よりよい日本の経済政策を、受講生が考えるための知見を提供する。受講生の理解と参加度を増すため、教員作成の独自教材を穴埋め方式で完成させてもらい、オンライン講義向けの画像資料も活用する。受講生自ら作成する中間レポートを元にした、受講生間の討論会も行う。				
授業計画	<p>第1回 9/26 開講ガイダンス</p> <p>第2回 10/3 日本の高度成長と経済政策</p> <p>第3回 10/10 グローバル化と日本のバブル経済</p> <p>第4回 10/17 大不況期・大不況後の経済政策と日本経済</p> <p>第5回 10/24 アベノミクスとアベノミクス後の日本経済</p> <p>第6回 11/7 受講生皆さんの中間レポート発表・討論会 その①</p> <p>第7回 11/14 アメリカ：金融危機を超えて その①</p> <p>第8回 11/21 アメリカ：金融危機を超えて その②</p> <p>第9回 11/28 EU：債務危機からコロナ危機へ</p> <p>第10回 12/5 中国：新たなる覇権国となりうるか</p> <p>第11回 12/12 グローバル化と経済政策：自由貿易か保護主義か</p> <p>第12回 12/19 米中対立・体制間対立（民主主義対権威主義）と経済政策</p> <p>第13回 1/9 ポピュリズムと経済政策</p> <p>第14回 1/16 受講生皆さんの中間レポート発表・討論会 その②</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	「穴埋め方式」の教材を、担当教員が作成して配布				
上記教科書以外の参考図書	<p>田代・萩原・金沢編、2011、『現代の経済政策（第4版）』、有斐閣。</p> <p>伊藤元重、2016、『どうなる世界経済 入門 国際経済学』、光文社新書。</p> <p>河崎・河音・藤木編、2021、『現代アメリカ政治経済入門』、ミネルヴァ書房。</p>				
その他（HP等）	Blackboardに講義ページを作成し、利用予定。 詳細は、初回ガイダンスでお知らせします。				

科目コード	0G251	科目名	21世紀の中国経済		科目群	第2群
担当者	厳 成男（ゲン セイナン）					
開講日程・時限	秋学期・金曜日・5時限		授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限あり					
授業の目標	中国の経済発展と制度変化の歴史、実態、および両者の間の相互関係を考察し、激変する中国の社会経済システムのさまざまな側面について理解することを通じて、中国経済が世界や日本に及ぼす影響について正しく認識することができる。					
授業の内容	世界第二位の経済大国であり、日本の最大貿易パートナーである中国経済の変容（量的拡大と質的向上）について社会経済学（Political Economy）の視点に基づいて講義する。具体的に、高度経済成長から中成長に転換しつつある中国の社会経済システムが直面しているさまざまな問題—市場競争、体制転換、経済成長、所得分配、対外関係、雇用・労働、環境、格差など—を取り上げ、その発生メカニズム、実態、政府の政策的対応、および効果とインパクト等について解説する。					
授業計画	第1回 9/22 ガイダンス—中国経済を正しく理解するために 第2回 9/29 中国の経済地理—成長の地理的条件 第3回 10/6 中国の経済成長の軌跡—改革開放の役割 第4回 10/13 中国の社会主義市場経済システム—特殊性の根源 第5回 10/20 中国の政治と行政システム—中央と地方の関係 第6回 10/27 中国の金融システム—コントロールと市場化のバランス 第7回 11/10 中国の財政システム—地方政府の土地財政 第8回 11/24 中国の雇用システム—二重構造の解消に向けて 第9回 12/1 中国の社会保障システム—適度普惠型社会保障 第10回 12/8 中国経済の新常態—内需主導型成長への転換 第11回 12/15 中国のイノベーション促進政策—技術自立への道 第12回 12/22 中国の環境・エネルギー政策—成長とのトレードオフ 第13回 1/5 中国経済成長のインパクト—グローバルインバランス 第14回 1/19 米中覇権争いの帰趨—21世紀を方向付ける					
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価					
講義中に直接使用する教科書	教科書は指定しない。 授業毎に、講義資料（論文、レジュメ等）を配布する。					
上記教科書以外の参考図書	①アーサー・R・クローバー、2018、『チャイナ・エコノミー』（東方雅美訳）、白桃書房、2,852（税込）。②トーマス・オーリック、2022、『中国経済の謎—なぜバブルは弾けないのか』（藤原朝子訳）、ダイヤモンド社、1,980（税込）。					
その他（HP等）	普段から『日本経済新聞』の中国経済関連記事を読むことを推奨する。					

科目コード	OG307	科目名	セカンドステージの哲学		科目群	第3群
担当者	佐々木 一也 (ササキ カズヤ)					
開講日程・時限	秋学期・火曜日・4時限	授業形式	オンライン	単位数	2単位	
備考	履修人数制限なし					
授業の目標	人生を生きてくると自分の半生の評価と未来を含めた全体像が気になるものです。哲学に触れて、個人の人生と個人の時間空間を超えた大きな普遍的価値との繋がりを自覚し、残された未来を自分なりに有意義に構築する手がかりを得ます。					
授業の内容	近代日本の社会制度の基盤である西洋哲学と人としての生き方の基盤であり続けている東洋思想（儒教・仏教）との違いを知ります。そして哲学の使い方を学びます。その中で、解釈学という新しい哲学の手法、特に螺旋的思考法を学びます。その上で、セカンドステージの私たちが現在あるいは未来において対処しなければならない事象について、哲学的に考える練習を行います。哲学は古代ギリシャ哲学以来対話を重視してきました。この授業でも十分に対話の時間を持ちます。					
授業計画	第1回 9/26 西洋哲学と現代日本文化（1）ギリシャ哲学 第2回 10/3 西洋哲学と現代日本文化（2）主体主義と合理性 第3回 10/10 西洋哲学と現代日本文化（3）多元主義と相対性 第4回 10/17 日本的発想の特徴 同調性・曖昧性・権威性 第5回 10/24 哲学的解釈学（1）曖昧な生を捉える 第6回 11/7 哲学的解釈学（2）螺旋的思考法 第7回 11/14 自己を支える自由と「非自立的自律性」 第8回 11/21 他者理解に基づく人間関係の構築 第9回 11/28 社会と世間の間での民主主義の使い方 第10回 12/5 科学技術、特にAIの進歩との共存のために 第11回 12/12 私的所有はなぜ継承（相続）されるのか 第12回 12/19 平等であるはずの人の人生は平等か 第13回 1/9 命とはどのようなものか・永遠の未来 第14回 1/16 まとめ・それぞれのセカンドステージの哲学に向けて					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	各回の授業で手許資料としてプリントを配布します。					
上記教科書以外の参考図書						
その他（HP等）						

科目コード	OG350	科目名	現在（いま）を生きるための健生学	科目群	第3群
担当者	堀 エリカ（ホリ エリカ）				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限あり				
授業の目標	人生 100 年時代と言っても過言ではない現代社会の大きなライフテーマである「最期の瞬間を迎えるまで如何に健やかに生きるか」について、広義な意味における「健康」や「医療」の視点から学ぶ時間を持ち、思索を深める。				
授業の内容	<p>私たちが健やかな人生を送るために、日々の生活の中で向かい合うべき様々な課題の中から、本授業においては次の3つに焦点を当て考察を行う。</p> <p>① 心身状態の把握と調整 ② 医療への理解と主体的な受け方 ③ 人生の最終章である「死」についての理解</p>				
授業計画	<p>第1回 9/20 インTRODクシヨN & ヘルスリテラシー（情報真偽の見極め） 第2回 9/27 病気を知る（病因、現代的な病気） 第3回 10/4 健康づくりのためのヘルスチェック（病気予防と生活習慣） 第4回 10/18 病院の選び方とかかり方（選択の視点、セカンドオピニオン） 第5回 10/25 医療コミュニケーション（医療者と患者との間に生じるズレ） 第6回 11/8 医療の意思決定（意思決定過程、インフォームドコンセント） 第7回 11/15 終末期の医療（在宅療養、ホスピス、安楽死と尊厳死） 第8回 11/22 生命倫理（法医学と命） 第9回 11/29 「死」とは何か（キューブラー・ロス氏の死に逝く人との対話） 第10回 12/6 死の準備教育（遺される（た）人の心理プロセス） 第11回 12/13 死の疑似体験ワーク 第12回 12/20 予備1 第13回 1/10 予備2 第14回 1/17 まとめ</p> <p>* 時事問題やゲスト講師招聘等により、計画変更の可能性あり</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	OG312	科目名	セカンドステージとテクノロジー	科目群	第3群
担当者	村上 祐子 (ムラカミ ユウコ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・3時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考	履修人数制限なし				
授業の目標	人工知能などの先端技術を導入して激変する社会の現状を把握し、今後の変化に備える。科学技術の社会受容史を踏まえつつ、加速する社会変化への過去の適応可能性を検討する。				
授業の内容	テクノロジーは私たちの生活をこれまでも変えてきました。これからはなおさら変化は激しくなることが予想されます。また、科学技術によって自然を制御しようとしてきた人間の活動が環境そのものを変化させてきたことから、これまでにはなかった災害への対処も必要になります。科学技術の哲学と科学技術社会論の基礎の講義を4回行った後、とくに人工知能を取りあげさまざまな社会課題を概観しながら、参加者とディスカッションを進めます。				
授業計画	第1回 9/26 ガイダンスとイントロダクション 第2回 10/3 科学と技術の哲学1：科学と技術の関係 第3回 10/10 科学と技術の哲学2：科学の倫理と科学者の倫理 第4回 10/17 科学技術社会論1：科学と社会の関係 第5回 10/24 科学技術社会論2：科学技術の社会史 第6回 11/7 人工知能概説1：人工知能とは何か 第7回 11/14 人工知能概説2：人工知能の背景となる技術 第8回 11/21 人工知能技術の応用1 第9回 11/28 人工知能技術の応用2 第10回 12/5 人工知能技術の応用3 第11回 12/12 人工知能技術とセカンドステージ1：医療と健康 第12回 12/19 人工知能技術とセカンドステージ2：労働 第13回 1/9 人工知能の哲学 第14回 1/16 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)	授業中にオンライン資料を中心に参考情報を紹介します。				